

日本赤十字看護大学 看護学部
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学では、次の力を卒業までに身につけることを重視し、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

全ての DP は相互に関連しながら、7) と 8) に示した統合的な力を身につける。

- 1) 擁護する力
倫理的視点に基づき、人間の尊厳と権利を擁護する力
- 2) グローバルな視点で関心をもつ力
人々の健康と社会生活についてグローバルな視点で関心をもつ力
- 3) 関係を築く力
多様な価値観や文化をもつ人々を理解し、自身を客観的に省みながら関係を築く力
- 4) 実践する力
あらゆる対象に向けて、根拠に基づいた看護を実践する力
- 5) 探求する力
問いを見出し、その解決に向けて深く考え、探求する力
- 6) 連携・協働する力
健康上の諸課題に対応する人々との連携・協働に向けて主体的に関与する力
- 7) 成長する力
専門職者として、社会状況の変化に応じて成長し続ける力
- 8) 変化を生み出す力
既成概念にとらわれず、創造的に変化を生み出し、発信していく力

日本赤十字看護大学 看護学部
教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学部のディプロマ・ポリシーの達成のために、以下の方針でカリキュラムを編成し、実施する。

- 1) 赤十字の理念に基づき人道の実現を目指した看護を探究できるカリキュラムとする。
- 2) 人道の実現にむけた幅広く豊かな思考、価値観を有する人間性と自律性を涵養するために、高等学校からの連携教育を図り、看護専門職として基礎的な内容から専門的・応用的な内容へと段階的に学修を積むとともに、文理双方の分野から様々な科目で構成するリベラルアーツ科目を全学年通じて学修できるカリキュラムとする。
- 3) 本学で育成したい能力の獲得と効果的な学修に向けて、コンピテンシーベースおよび各専門領域が連動しあう科目設定にするとともに、講義・演習・実習を一体化した統合的なカリキュラムとする。
- 4) 学生一人ひとりの個性をふまえた少人数制の教育を取り入れるとともに、学内外での学びを通じて自律性や創造性を発揮できるよう、学生の自己学修や学外活動を促進するために、セメスター制を基本としクォーター併用制に準じた時間割編成とする。
- 5) 様々な世代や健康状態にある人々の生活を理解する学修からスタートし、医療を必要とする人との生活とその看護に関する学修、保健医療福祉に関わる多職種の中での看護の機能と役割を学修するカリキュラムとする。
- 6) 自律した看護職者、また看護の立場からリーダーシップを発揮できる人材となるために、アクティブ・ラーニングを基盤とした学修を展開し、4年間かけて主体性、探求力、発信力を育むことができるカリキュラムとする。
- 7) 学修成果の評価は、多様な形態を用いた総合的な評価を行う。加えて、学生とのパートナーシップを活用して教育方法・内容の改善につなげる。

具体的には、＜基礎科目群＞と＜看護専門科目群＞という2つの科目群によって構成し、2つの科目群のバランスを配慮したカリキュラム構造としている。

＜基礎科目群＞は、建学の理念を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性のある人材育成を目的とするための科目群である。ここでは、「赤十字」、「人間」、「社会」、「自然と科学」、「情報」、「言葉」、「健康」、「研究」に区分する。

＜看護専門科目群＞は、看護学の専門的知識・技術を基礎から応用へと段階的に学修するための科目群である。ここでは、「看護論」、「基盤臨床看護論」、「精神保健看護学」、「生涯発達看護学」、「地域・在宅看護学」、「看護管理学・看護教育学」、「応用看護学」、「国際・災害看護学」、「看護学実習」、「公衆衛生看護学」に区分する。

日本赤十字看護大学 看護学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学では、赤十字の理念に基づき、看護の実践と研究に必要な基礎的能力を持ち、人類と国際社会に貢献できる、幅広い教養と豊かな人間性のある人材を育てることを目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

1. 赤十字理念である人道（Humanity）に共感し、自分も他者も大切にできる人
2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、論理的に考えることができる人
3. 感性が豊かで、多様な人とコミュニケーションをとることができる人
4. 看護に関する学問・実践の楽しさや深さを発見し、持続的に学ぼうとする意欲を持つ人

総合型選抜、3種類の学校推薦型選抜、個別学力試験を課する一般選抜、及び大学入学共通テストを利用する4種類の一般選抜というさまざまな入学者選抜方式を採用し、多様な人材を受け入れることを目指しています。

総合型選抜

健康・生活・社会・国際・自然・環境などに対する深い関心、熱意をもって取り組んできた独自の活動の実績と、基礎学力、表現力、コミュニケーション能力を有し、将来看護の専門職者として活動する明確なビジョンと強い意志を持つ者を、多面的・総合的な評価により選抜します。

また、多様な背景に拠って学ぶ機会に制限がある意欲・能力のある者を、その負担に配慮して選抜します。

基礎学力・表現力：英語（外部検定試験）、小論文

活動の実績・学ぶ意欲・活動ビジョン・表現力・コミュニケーション能力：書類審査、面接（個人面接）

学校推薦型選抜

総合的な基礎学力とコミュニケーション能力・学ぶ意欲を有する者を選抜します。指定校推薦選抜、公募推薦選抜、赤十字特別選抜（学校推薦型）の3種類があります。特に赤十字特別推薦選抜では、赤十字の理念を理解し、将来日本赤十字社の看護専門職者として活躍する強い意志を有する者を選抜します。

公募推薦選抜、赤十字特別選抜（学校推薦型）

基礎学力：調査書「全体の学習成績の状況」、国語（資料読解・記述式問題を含む）

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（個人面接）

指定校推薦選抜

基礎学力：調査書「全体の学習成績の状況」

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（個人面接）

一般選抜

リテラシー（読解記述力）と理数系科目の基礎学力及びコミュニケーション能力・学ぶ意欲についてバランスが取れた者を選抜します。

基礎学力：英語、国語（記述式問題を含む）、理数系選択科目（数学、生物、生物基礎と化学基礎から1科目選択）

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（個人面接）

大学入学共通テスト利用選抜

基礎学力を重視して選抜します。試験科目によって4種類の入学者選抜試験があります。

I－A：理数系の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、数学Ⅰ、数学A、理数系選択科目（数学Ⅱ、数学B、数学C、生物、化学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から1科目選択）

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、「化学基礎」と「生物基礎」を選択解答すること。

I－B：リテラシー（読解力）の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）

Ⅱ：リテラシー（読解力）もしくは理数系の基礎学力、及び総合的学力を審査

基礎学力：英語（リーディング及びリスニング）、選択科目（数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）、生物、化学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から2科目選択）

※ 選択科目は、数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）から必ず1つ以上選択すること。

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、「化学基礎」と「生物基礎」を選択解答すること。

総合的学力：小論文

赤十字6看護大学連携併願選抜：リテラシー（読解力）及び理数系の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、国語（近代以降の文章）、理数系選択科目（数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学C、物理、化学、生物、地学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から1科目選択）

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、2出題範囲を選択解答すること。

入学までに身につけてほしいこと

本学入学後は、看護学を修得するための独自のカリキュラムに沿って学び、ディプロマ・ポリシーに定める8つの力を身につけることを目指します。

そのために、大学入学資格取得に必要な教育課程（または試験）における基本的な国語の読解記述力と英語力、及び生物・化学・数学の基礎学力を身につけておくことが望まれます。

また、多様な価値観を持つ人々と関係を築いていくためのコミュニケーション能力も重要となります。

日本赤十字看護大学　さいたま看護学部
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学では、次の力を卒業までに身につけることを重視し、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

（１）から（６）は基本となり中核となる力であり、（７）と（８）はより発展的な力として設定する。

（１）関係を築く力

- ① 一人ひとりの人間を総合的に理解することができる。
- ② 他の人たちと相互に支え合い、成長し合う関係を築くことができる。
- ③ 異なる文化、価値観を持つ人々を、かけがえのない人間として尊重する態度を持つことができる。
- ④ さまざまな人との間に支援に向けた関係を深めることができる。

（２）擁護する力

- ① 人間の尊厳と権利を倫理的な視点から擁護する上での課題に気づくことができる。
- ② 一人ひとりの人間の意思と独自性を尊重し守ることができる。

（３）実践する力

- ① 看護を受ける人の成長発達や生活の場に応じた看護に必要な知識・技術を用い、実践することができる。
- ② 看護を受ける人の持つ力を活かして実践することができる。
- ③ 健康レベルに応じた諸課題への対処に必要な知識・技術を用い、実践することができる。
- ④ 看護を受ける人の安全を守るための配慮ができる。
- ⑤ 自らの行った実践を振り返り、評価することができる。
- ⑥ 災害等の危機的な状況下での人々の健康問題や支援活動に関心を持つことができる。

（４）探求する力

- ① 自らを取り巻く状況で取り組むべき課題を見出すことができる。
- ② 自らが設定した諸課題の情報を適切に収集し、分析することができる。
- ③ 自らが設定した諸課題の解決に向けて、根拠に基づいて解決策を検討することができる。
- ④ 新たな課題に関心を持ち、解決に向けて主体的に取り組むことができる。

（５）連携する力

- ① 変化する保健医療福祉システムにおける看護職及び他の専門職の機能と役割を理解することができる。
- ② 他の関係職種との情報交換や問題解決にむけた連携に参加することができる。
- ③ コミュニティのなかで、健康上の諸課題に対応するためにネットワークの一員として参加することができる。

（６）成長する力

- ① 専門職として成長し続けるための自己の課題を見出すことができる。
- ② 国内外の社会変化に関心を持ち、看護専門職として学び続ける態度を持つことができる。
- ③ 専門職を目指す者同士で共に教え学びあい、成長し合う姿勢を持つことができる。

(7) コミュニティに貢献する力

- ① 人々の生活の場であるコミュニティに関心に向けることができる。
- ② コミュニティにおける健康上の諸課題とその背景を理解することができる。
- ③ 看護の専門性を活かしたコミュニティへの貢献に関心と意欲を持つことができる。

(8) 変化を生み出す力

- ① 変動する社会や種々の状況下での人々の健康へのニーズに関心を持つことができる。
- ② より良い社会の実現にむけて、新たな看護を創り出そうとする姿勢を持つことができる。

日本赤十字看護大学　さいたま看護学部
教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学のカリキュラムは、教育目的・目標の実現を目指して以下の方針でカリキュラムを編成し、実施する。

（１）基礎科目群は、赤十字の理念である人道の実現に向けて努力できる人材の育成の理念に基づき、人間性を育むためのリベラルアーツの重要性を鑑み、「赤十字」、「人間」、「社会」、「自然と科学」、「情報」、「言葉」、「基礎ゼミ」、「健康」に区分する。基礎科目群の「人間」「言葉」はDP1 関係を築く力、「赤十字」はDP 2 擁護する力、「社会」「自然と科学」「情報」はDP 4 探求する力、「健康」はDP 3 実践する力、「基礎ゼミ」はDP 8 成長する力を培うことをねらいとする。看護専門科目群は、看護の基礎的能力を育成するために、＜看護論＞＜看護技術論＞＜看護援助論＞の３区分で構成し、その土台の上に、様々な場や健康レベルに応じた看護実践能力を育成するために、＜コミュニティケア＞＜健康レベル別看護学＞＜発達看護学＞＜精神保健看護学＞＜多様な状況における看護学＞の５区分で構成する。さらに、専門家の能力として必要な科目を、＜応用看護学＞＜看護学実習＞＜研究＞の３区分で構成する。また、保健師資格を修得するための科目区分として＜公衆衛生看護学＞を置く。看護専門科目群は、１年次から４年次まで段階的に８つの力を培うことができるように配置する。

（２）高等学校からの連携教育を図りながらDP 4 探求する力を養い、看護専門職として基礎的な内容から専門的・応用的な内容へと段階的に学修を積めるように１年次から４年次にわたってDP 3 実践する力を培う科目を配置する。また、各段階で常に人道（Humanity）を実現するための看護の原点に立ち返って、DP 2 擁護する力を探求できるらせん型のカリキュラムとする。

（３）授業では、それぞれの科目を講義、演習、実習等の多様な学修形態を通じて展開し、グループワーク、発表、討議等の能動的学修を取り入れることで、卒業時到達目標として身につけるべき８つの力を総合的に育成する。

（４）学生一人ひとりの個性をふまえた教育のために、少人数による学修を取り入れるとともに、大学での学びを通じて自律性（DP 6 成長する力）や創造性を発揮できるよう（DP 8 変化を生み出す力）、学生の自己学修を促進する（DP 4 探求する力）時間割編成と、応用的・発展的な学修を選択的に履修できる科目設定を行う。

（５）コミュニティの概念を理解し、そこで生活する人々の視点に基づいて健康問題を理解し、必要な看護援助を展開できる能力を育成するために、系統的にコミュニティケアを学べる科目区分を置き、１年次から４年次にわたって段階的にコミュニティに貢献する力（DP 7）、連携・協働する力（DP 5）を培う。

（６）自ら学び探求する能力（DP 4 探求する力）、及び専門職に求められる研究的な態度と能力（DP 8 変化を生み出す力）を身につけるために、少人数による基礎ゼミ、研究に関する科目区分を置く。

日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学では、赤十字の理念に基づき、看護の実践と研究に必要な基礎的能力を持ち、人類と国際社会に貢献できる、幅広い教養と豊かな人間性のある人材を育てることを目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

1. 赤十字理念である人道（Humanity）に共感し、自分も他者も大切にできる人
2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、論理的に考えることができる人
3. 感性が豊かで、多様な人とコミュニケーションをとることができる人
4. 看護に関する学問・実践の楽しさや深さを発見し、持続的に学ぼうとする意欲を持つ人

総合型選抜、3種類の学校推薦型選抜、個別学力試験を課する一般選抜、及び大学入学共通テストを利用する4種類の一般選抜というさまざまな入学者選抜方式を採用し、多様な人材を受け入れることを目指しています。

総合型選抜

健康・生活・社会・国際・自然・環境などに対する深い関心、熱意をもって取り組んできた独自の活動の実績と、基礎学力、表現力、コミュニケーション能力を有し、将来看護の専門職者として活動する明確なビジョンと強い意志を持つ者を、多面的・総合的な評価により選抜します。

また、多様な背景に拠って学ぶ機会に制限がある意欲・能力のある者を、その負担に配慮して選抜します。

基礎学力・表現力：英語（外部検定試験）、小論文

活動の実績・学ぶ意欲・活動ビジョン・表現力・コミュニケーション能力：書類審査、面接（個人面接）

学校推薦型選抜

総合的な基礎学力とコミュニケーション能力・学ぶ意欲を有する者を選抜します。指定校推薦選抜、公募推薦選抜、赤十字特別選抜（学校推薦型）の3種類があります。特に赤十字特別推薦選抜では、赤十字の理念を理解し、将来日本赤十字社の看護専門職者として活躍する強い意志を有する者を選抜します。

公募推薦選抜、赤十字特別選抜（学校推薦型）

基礎学力：調査書「全体の学習成績の状況」、国語（資料読解・記述式問題を含む）

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（個人面接）

指定校推薦選抜

基礎学力：調査書「全体の学習成績の状況」

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（個人面接）

一般選抜

リテラシー（読解記述力）と理数系科目の基礎学力及びコミュニケーション能力・学ぶ意欲についてバランスが取れた者を選抜します。

基礎学力：英語、国語（記述式問題を含む）、理数系選択科目（数学、生物、生物基礎と化学基礎から1科目選択）

コミュニケーション能力・学ぶ意欲：面接（個人面接）

大学入学共通テスト利用選抜

基礎学力を重視して選抜します。試験科目によって4種類の入学者選抜試験があります。

I－A：理数系の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、数学Ⅰ、数学A、理数系選択科目（数学Ⅱ、数学B、数学C、生物、化学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から1科目選択）

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、「化学基礎」と「生物基礎」を選択解答すること。

I－B：リテラシー（読解力）の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）

Ⅱ：リテラシー（読解力）もしくは理数系の基礎学力、及び総合的学力を審査

基礎学力：英語（リーディング及びリスニング）、選択科目（数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）、生物、化学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から2科目選択）

※ 選択科目は、数学Ⅰ、数学A、国語（近代以降の文章）から必ず1つ以上選択すること。

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、「化学基礎」と「生物基礎」を選択解答すること。

総合的学力：小論文

赤十字6看護大学連携併願選抜：リテラシー（読解力）及び理数系の基礎学力を審査

英語（リーディング及びリスニング）、国語（近代以降の文章）、理数系選択科目（数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学C、物理、化学、生物、地学、物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から1科目選択）

※ 『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、2出題範囲を選択解答すること。

入学までに身につけてほしいこと

本学入学後は、看護学を修得するための独自のカリキュラムに沿って学び、ディプロマ・ポリシーに定める8つの力を身につけることを目指します。

そのために、大学入学資格取得に必要な教育課程（または試験）における基本的な国語の読解記述力と英語力、及び生物・化学・数学の基礎学力を身につけておくことが望まれます。

また、多様な価値観を持つ人々と関係を築いていくためのコミュニケーション能力も重要となります。

日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科
修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 看護学専攻修士課程

修士課程に所定の期間在学し、修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文審査及び最終試験に合格し、以下の能力・資質を有する人に、学位（修士（看護学））を授与する。

1. 倫理的な視点と内省に基づいた看護職者として高度な実践能力
人道の実現に向けて、人々の尊厳と権利を擁護するために、倫理的課題を多角的に捉え、高度な看護実践や教育を行うことができる能力
2. 看護学の発展に寄与する基礎的研究能力
既存の知見を体系的に収集・分析し、研究課題を見出し、論文として知見をまとめる能力
3. 多職種と連携・協力し課題解決に向けた方略を提案できる能力
国内外の社会変化、研究知見、実践の動向を把握・分析し、多職種と連携・協力し、看護における専門分野で課題解決に向けた方略を提案できる能力

2. 国際保健助産学専攻修士課程

修士課程に所定の期間在学し、修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文審査及び最終試験に合格し、以下の能力・資質を有する人に、学位（修士（看護学））を授与する。

1. 倫理的な視点と内省に基づいた助産師として高度な実践能力
人道の実現に向けて、人々の尊厳と権利を擁護するために、倫理的課題を多角的に捉え、高度な助産実践や教育を行うために基盤となる能力
2. 助産学の発展に寄与する基礎的研究能力
実践における課題と既存の知識を体系的に収集・分析し、研究課題を見出し、論文として知見をまとめ、根拠に基づいた支援を考察する能力
3. 国際的視野から多職種と連携・協力し課題解決を図る能力
国際的視野から国内外の社会変化、研究知見、実践の動向を把握することで、多職種と連携、協力し、助産分野で課題解決に向けた方略を提案できる能力

3. 看護学専攻博士後期課程

博士後期課程に所定の期間在学し、修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文審査及び最終試験に合格し、以下の能力を獲得し、かつそれらを統合して発揮する能力を有する人に、学位（博士（看護学））を授与する。

- ① 看護における現象を深い学識をもとに捉え、看護学の発展に向けた課題を明らかにする能力
- ② 倫理的課題を俯瞰的・批判的に分析し、人々の尊厳と権利を擁護する方略を提言する能力
- ③ 看護学の発展に寄与する研究を独立して推進する能力
- ④ 学際的に協働し、リーダーシップを発揮する能力
- ⑤ 世界的視野をもち、よりよい社会を創造するためにエビデンスに基づいた発信・提言をする能力
- ⑥ 自己研鑽を続けるとともに、次世代の成長を促す能力

4. 共同災害看護学専攻博士課程

博士課程共同災害看護学専攻に所定の期間在学し、修了要件となる単位数を修得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に学位を授与する。学位の名称は、博士（看護学）とし、Disaster Nursing Global Leader を付記する。

- ① 人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。
- ② 災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。
- ③ グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
- ④ 学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科
教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 看護学専攻修士課程

看護学専攻の教育目標に到達するため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施し、学修成果の評価を行う。

- ① 専門分野に関する現象を多角的に捉え、探求する力を育成するために、研究に関する科目、専門分野の科目を体系的に配置する。
- ② 人々の尊厳と権利を擁護する能力を育成するために、赤十字の理念である人道に関する科目や、情報科学、人文社会科学による多面的かつ学際的な視座から探求するヘルスケア科学とヒューマニティ（Healthcare Sciences and Humanities）の科目（学科目区分）を各専門分野や実践・研究の基盤として置く。
- ③ 看護学の発展に寄与する基礎的な研究能力を育成するために、研究に関する科目や特別研究を置き、段階的な論文作成のプロセスを踏めるよう多角的な視点から研究能力を育成する。
- ④ 教育・研究者を育成する研究コース、高度実践家を育成する専門看護師コース、看護教育または看護管理の実践者育成のための実践コース、それぞれの目的に応じた科目を配置し、看護学の高度な実践能力の育成や教育・管理の実践能力、研究能力の育成を行う。
- ⑤ 各科目は学生自ら学修計画を立案し、能動的に学びが得られるようアクティブラーニングの形式を基本とする。
- ⑥ 各科目の学修成果の評価はシラバス等で明示し、科目特性を考慮し、知識・技術・態度等を総合的に評価する。学位論文のプロセスと成果、看護実践者、教育・研究者としての能力と資質を総合的に評価する。

2. 国際保健助産学専攻修士課程

国際保健助産学専攻の教育目標に到達するため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施し、学修成果の評価を行う。

- ① 専門分野に関する現象を多角的にとらえ、探求する力を育成するために、研究に関する科目、専門分野の科目を体系的に配置する。
- ② 人々の尊厳と権利を擁護する能力を育成するために、赤十字の理念である人道に関する科目や情報科学、人文社会科学による多面的かつ学際的な視座から探求するヘルスケア科学とヒューマニティ（Healthcare Sciences and Humanities）の科目（学科目区分）を各専門分野や実践・研究の基盤として置く。
- ③ 助産学の発展に寄与する基礎的な研究能力を育成するために、研究に関する科目を置き、段階的な論文作成のプロセスを踏めるよう多角的な視点から研究能力を育成する。
- ④ 教育・研究者を育成する研究コース、助産師国家試験受験資格要件及び高度実践助産師を育成する実践コース、それぞれの目的に応じた科目を配置し、助産学の高度な実践能力の育成や教育・研究能力の育成を行う。
- ⑤ 各科目は、学生が自ら学修計画を立案し、能動的な学びを得られるようアクティブラーニングの形式とする。

- ⑥ 各科目の学修成果の評価はシラバス等で明示し、科目特性を考慮し知識・技術・態度を総合的に評価する。課題研究のプロセスと成果、実践者、教育・研究者としての能力と資質を総合的に評価する。

3. 看護学専攻博士後期課程

博士後期課程の教育目標に到達するため、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施している。

教育課程の編成方針

1. 専門分野にとらわれない多角的・論理的・倫理的思考、研究能力を培うための科目を置く。
2. 必要に応じて修士課程科目の履修を求める。

教育内容・方法の方針

3. 他の学生・研究者との積極的な交流・討議を促す。
4. 実践的演習とIT技術を取り入れた授業を行う。
5. 英語で聞く、話す、読む、書く機会を設ける。
6. 自身を省察し成長するだけでなく、他者の成長を促す能力を培う機会を設ける。

学修成果の評価の方針

7. 学生の成長を促すため、DPを踏まえた、診断的評価、形成的評価、総括的評価をバランスよく取り入れる。

4. 共同災害看護学専攻博士課程

博士課程共同災害看護学専攻は、災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的・目標に基づき、以下のような方針で教育課程を編成・実施している。

- ① カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「災害看護学の基盤を支える科目群」、災害看護学に関する専門的な知識・技術・技能を修得するための「災害看護学の専門科目群」、学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学びを深める「インデペンデント学修科目群」および「災害看護学研究支援科目群」の4つの科目群によって構成する。
- ② 学際的および国際的視野を養い、災害看護の研究者かつ高度な実践者としての能力が修得できるように、講義に加え、演習、実習など、多様な教育方法を組み合わせて授業科目を開設する。
- ③ 構成大学院（「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研究科」）は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
- ④ 学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualify Examination を実施する。
- ⑤ 構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように科目を編成する。

日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科 修士課程看護学専攻 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻では、幅広い視点で看護の現象を捉え、人々の尊厳と権利を尊重した高い倫理観とともに、高度な看護実践能力や基礎的研究能力のもと、様々な課題を探究することで看護学の発展と人々の健康に貢献できる看護専門職を育成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めます。

1. 看護をはじめとする実践で得た体験を大切にして、看護学の探究を志す人
2. 赤十字の理念である人道（Humanity）に共感し、一人ひとりを大切にし、人々の尊厳を守る実践・教育・研究を志す人
3. 自らの意見をもち、かつ柔軟に他者の意見に耳を傾け、主体的に学ぶ姿勢がある人
4. 論理的にものごとを考え課題を探究する基礎的な力を有している人

上記の求める学生像に合致した入学者を受け入れることを目指し、次の選抜を実施します。

一般

看護学専門領域において、実践者および教育・研究者をめざす者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、看護専門科目における学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

卒業生大学院特別選考

本学の学部卒業生から、看護学専門領域において、実践者および教育・研究者をめざす者に対して、提出された書類により選考するとともに、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

赤十字特別選考

赤十字施設（医療機関等）に勤務している看護職者から、看護専門領域において、看護の実践の場で質の向上を目指す者に対して、提出された書類により選考するとともに、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科 修士課程国際保健助産学専攻 入学受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本専攻では、幅広い視点で国際保健助産の現象を捉え、人々の尊厳と権利を尊重した高い倫理観とともに、高度な助産実践能力や基礎的研究能力のもと、様々な課題を探究することで国際保健助産学の発展と人々の健康に貢献できる専門職を育成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めます。

1. 看護・助産をはじめとする実践で得た体験を大切にして、助産学・看護学の探究を志す人
2. 赤十字の理念である人道（Humanity）に共感し、一人ひとりを大切にし、人々の尊厳を守ることを志す人
3. 自らの意見を持ち、かつ柔軟に他者の意見に耳を傾け、主体的に学ぶ姿勢がある人
4. 論理的にものごとを考え課題を探究する基礎的な力を有している人
5. 国際的視野からものごとを考えることを志す人

上記の求める学生像に合致した入学受入れを受けることを目指し、次の選抜を実施します。

一般

研究コース

国内外の助産学・母性看護学あるいは母子保健学の領域において、実践者および教育・研究者をめざす者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、看護専門科目における学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

なお、学修に必要となる英語の能力については、TOEFL ITP Level11・TOEFL iBTいずれかの公式スコアによって審査します。

実践コース

助産師資格取得に意欲のある看護師免許取得もしくは取得見込みの者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、看護専門科目における学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

なお、学修に必要となる英語の能力については、TOEFL ITP Level11・TOEFL iBTいずれかの公式スコアによって審査します。

学内推薦

実践コース

本学の学部在学学生の中から助産師資格取得に意欲のある者に対して、指定された科目の成績等により書類選考するとともに、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

卒業生大学院特別選考

研究コース

本学の学部卒業生（卒業見込みは含まない）から、国内外の助産学・母性看護学あるいは母子保健学

の領域において実践者および教育者・研究者をめざす助産師資格取得の者に対して、提出された書類により選考するとともに、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

実践コース

本学の学部卒業生から、助産学領域において実践者をめざす看護師資格取得かつ看護職者として3年程度の就労経験のある者に対して、提出された書類により選考するとともに、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

赤十字特別選考

研究コース

赤十字施設（医療機関等）に勤務している助産師から、助産学・母性看護学あるいは母子保健学の領域において、実践の場で質の向上を目指す者に対して、提出された書類により選考するとともに、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

実践コース

赤十字施設（医療機関等）に勤務している看護師から、助産学・母性看護学あるいは母子保健学の領域において実践者をめざす者に対して、提出された書類により選考するとともに、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

日本赤十字看護大学大学院 看護学研究科 博士後期課程看護学専攻
入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

博士後期課程では、看護学における深い学識や高度な実践能力とともに、卓越した専門性と倫理観に基づき人々の健康に貢献しうる研究を自立して行う能力をもち、世界的・学際的に看護学の発展を牽引できる看護専門職を育成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めます。

1. 看護における現象を幅広い視点から省察し、看護学を探究できる人
2. 赤十字の理念である人道（Humanity）に共感し、高い倫理観をもち、人々の尊厳と権利を擁護できる人
3. 看護学の発展に寄与する研究に取り組むための基礎的な力を有している人
4. 世界的・学際的視野から、ものごとを探究することを志す人
5. 新規性のあるテーマや課題に挑戦する意欲を有している人
6. 主体的に学ぶ姿勢があり、自己研鑽に取り組むことができる人

上記の求める学生像に合致した入学者を受け入れることを目指し、次の選抜を実施します。

一般

修士の学位取得見込み者又は修士の学位を有し、看護学の研究者をめざす者に対して、提出された成績証明書等により書類選考するとともに、看護専門科目及び英語における学力検査、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。

修了生特別選考

本学の大学院修士課程の学位取得見込者又は修了生から、看護学の研究者をめざす者に対して、提出された書類により選考するとともに、面接試験によって意欲および修了可能性について審査します。